

ドイツの環境保護運動 + RESTART Initiative の紹介

カタリーナ・エビンガー

第1部 ドイツの環境保護運動の専門的な紹介

1. 自己紹介

22歳。昨年、核の脅威のない世界のための市民団体が主催した3カ国の交流プログラムに参加。

この枠組みで仲間と RESTART Initiative を開始し、定期的にブログ記事を更新。

他にもバーデンヴュルテンベルク州の BUND Jugend の理事を務める。

目的：反核運動を環境保護運動の枠内で整理し、環境保護運動の概観を提供する

2. 構成

ドイツは特にグリーンか？

ドイツの環境保護

歴史的展開

市民社会におけるアクター

若者と環境

挑戦

まとめ

質問はいつでも OK

3. ドイツは特にグリーンか？

国民の91%以上にとって環境保護が重要

持続可能性に関して国政的に先駆者との定評がある。エネルギーシフト、ゴミの分別とリサイクル、菜食主義、厳格な法規制、緑の党.....

2012年の連邦環境庁の世論調査によると、ドイツ人の3分の1以上が環境保護と気候保全を現在の最重要問題と回答

この理由と現実を以下に解説

4. ドイツの環境保護

環境の分野では異なった組織と活動形態をもつ種々のグループが多数存在する。よく見られる重点項目は、環境保護（政治的）、自然保護（具体的な対策）、動物保護など

持続可能な開発という概念が議論の際に大きな役割を果たす

緑の党、政府機関、市民社会、企業、メディア

5. 歴史的展開

古代：排水問題

産業革命が転換点

20世紀初頭：青少年運動、ワンダー（放浪）運動、改革運動、自然の友

国家社会主義（ナチズム）：人種差別主義的な自然観及び故郷観

60年代：価値観の変化、70年代には「古典的」エコ（原子力、森林破壊、海洋の酸性化、化学物質カタストロフィ）が発生

結論：様々な影響、一様な展開ではない

6．市民社会のアクター

極めて多数の異なるグループ：古典的な団体、NGO、市民運動、有機農法、社会的な運動など。組織も運動も多種多様。

ドイツの主要3環境及び自然保護団体（グリーンピース、NABU、BUND）の会員総数は約160万人

重要なテーマ：森林、海洋及び湖沼河川の保護、気候保全、生物多様性・種の保存、食糧問題、消費

活動の重点は極めて多様：地域グループ、キャンペーン、ロビー活動

7．若者と環境

今日の若者が将来の甚大な環境問題の影響をもっとも受ける

大きな挑戦にはグローバルな解決法しか存在しない。国際的なネットワークは環境保護運動の成功の鍵

活動：若者は反対するだけでなく、賛成したい！ いい意味での手本が必要

若者のグループは学校外での教育で重要な役割を果たす。活動により職業に就いてからも有益な能力が身につく。

8．挑戦

持続可能な開発：強いあるいは弱い出発点？ 種々の持続戦略：安定、効率、充足（3角型）

グリーンウォッシング：持続可能性は流行だが、製品は本当にグリーンか？

9．まとめ

ドイツの環境意識は国際的比較して非常に高い

環境保護運動は非常に多様

第2部 RESTART Initiative の紹介

1．設立

RESTART は、Renewable Energy Sources . Today's Actions Result in Tomorrow（再生可能エネルギー。今日の行動が明日の結果）の略

2013年に3カ国（ベラルーシ、日本、ドイツ）の青年18人が参加して開催されたユースプロジェクトの枠組み

目標：再生可能エネルギー、原子力及び持続可能性についての情報提供、国際的な交流と協働

2．ブログ

国レベルの最近の活動の報告、背景情報

日本訪問の記録・報告

4言語：英語、日本語、ロシア語、ドイツ語